



HP、UNIX、OpenVMS ホスト用  
Reflection® の評価

# HP、UNIX、OpenVMS ホスト用 Reflection® の評価

本ガイドでは、Reflection® の主な機能を簡単に紹介します。  
本ガイドの内容は以下のとおりです。

- ホストとの接続
- 端末セッションのカスタム設定
  - ツールバーの編集
  - キーボードのカスタム設定
  - メニューとコマンドのカスタム設定
  - カスタム設定の保存
  - HTML 形式でのカスタム設定の表示
- ファイルとデータの転送
- タスクの自動化
  - マクロの使用
  - イベントのスケジュール
- VBA によるプログラミング
- 管理ツール: Reflection 管理者用ツールキット
  - ツールキットを使用する前に
- Reflection 製品の配布に関する詳細の参照先
- 結び

各項では、一般的な手順を取り上げ、ご自身でその機能を試すことができるようになっていきます。また、評価を進めながら、他の項の応用を兼ねた実践的な練習もできるようになっています。

Reflection の評価には、付属のデモホストまたはご使用のホストシステムのどちらを使用してもかまいません。本ガイドで示す手順は、デモホストを使用した場合を想定しています。そのため、手順を実行する際にご使用のホストシステムへのネットワークアクセス権は必要ありません。もちろん、ご使用のホストシステムで各手順をお試しになれます。その際、記載の注意事項をお読みください。

このバージョンの新機能に関する情報は、Reflection 製品に付属のオンラインヘルプで「新機能」を検索してください。

## ホストとの接続

ホストと接続するには、ホスト名を入力するだけでよい場合もあれば、他の設定も変更することが必要な場合もあります。Reflection には、接続ウィザードが用意されており、ウィザードの案内に従ってホストシステムとの接続設定を完了できます。【接続】-【接続の設定】コマンドを使用することもできます。

## やってみましょう

以下の手順は、【接続】メニューを使用して Reflection のデモホストに接続する方法です。また、これらの手順を利用してご使用のホストシステムに接続することもできます。

1. 【接続】-【接続の設定】コマンドをクリックします。
2. 【接続の設定】ダイアログボックスで、【ネットワーク】をクリックします。表示されるテキストボックスで、スクロールして【デモ】を選択します。ホストの種類を選択し、【接続】をクリックします。(実際のホストに接続するには、【Telnet】または使用している環境に適切なプロトコルを選択し、ホスト名と IP アドレスを入力します。)
3. 任意の名前とパスワードを使用してデモホストにログインします。
4. 【ファイル】-【保存】コマンドをクリックし、接続設定を含む新しい設定ファイルを作成します。今回の Reflection の評価では、この設定ファイルを使用します。

## 端末セッションのカスタム設定

Reflection には、ホストアプリケーションの使用をよりすばやく、そしてより容易にできる強力なカスタム設定機能が用意されています。カスタム設定が可能なメニューおよびツールバー、ホットスポット、キー操作またはマウスの動作を端末キーや機能に割り当てる機能、Reflection でのホストアプリケーションの色や外観を変更する機能などがあります。以下の項では、これらの機能のいくつかを紹介します。

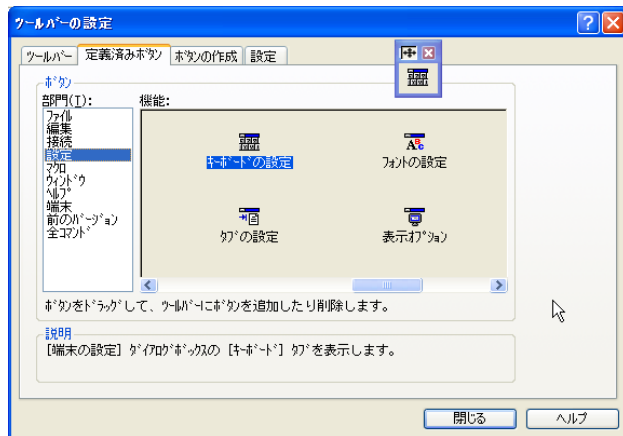
## ツールバーの編集

Reflection には 4 つの既定ツールバーが用意されており、頻繁に使用するコマンドにすばやくアクセスすることができます。これらのツールバーの一部または全部を表示したり変更できます。また、自分だけのカスタムツールバーを作成できます。この機能にアクセスするには、**【設定】 - 【ツールバー】** コマンドをクリックします。

### やってみましょう

以下では、PC キーボードの特定のキーに関連付けられたホスト機能を変更するために、ボタンとともにカスタムツールバーを作成する手順を説明します。

1. **【設定】 - 【ツールバー】** コマンドをクリックします。
2. **【ツールバー】** タブで、**【新規】** をクリックします。ツールバーの名前（例えば、「キーボード」）を指定します。
3. **【設定】** タブで、**場所**のオプションを選択します。表示する位置を変更すると、画面上的ツールバーの位置が変わります。
4. **【定義済みボタン】** タブで、**【部門】** の下の **【設定】** を選択し、**【キーボード割り当ての設定】** アイコンを新しいツールバーにドラッグします。
5. **【閉じる】** をクリックして、端末画面に戻ります。



## キーボードのカスタム設定

Reflection では、キー操作を動作に関連付けることができます。この過程を「キーボード割り当て」と呼びます。キーボードをカスタム設定して、使い慣れた製品に合わせたり、ホストアプリケーションとの対話部分を改良したり、作業効率を上げることができます。この機能にアクセスするには、**【設定】 - 【キーボード割り当て】** コマンドをクリックします。

### やってみましょう

以下の手順では、PC キーを端末キーに割り当てます。

1. 前項の「やってみましょう」で作成した **【キーボード】** ツールバーの **【キーボード割り当ての設定】** ボタンをクリックします（または、**【設定】 - 【キーボード割り当て】** コマンドをクリックします）。
2. **【キーボード割り当ての設定】** ダイアログボックスが表示されます。ホストキーまたは機能にすでに割り当てられたキーは緑色、割り当てられていないキーは灰色で表示されます。



3. 画面上的の PC キーボードで、割り当てられていない（灰色の）キーをクリックします。
4. 画面上的の端末キーボードで、任意のキーをクリックします。
5. **【割り当て】** をクリックし、これらのキーを互いに関連付けます。
6. キー割り当てを保存しないで端末画面に戻るには、**【キャンセル】** をクリックします。変更を保存する場合は、**【OK】** をクリックします。

### メニューとコマンドのカスタム設定

Reflection のメニューはカスタム設定が可能です。個々のメニュー項目の削除、メニューバーの非表示、標準の Reflection タスクを実行するメニュー項目の追加、作成したカスタムマクロを実行するメニュー項目の作成などが行えます。この機能にアクセスするには、**【設定】 - 【メニュー】** コマンドをクリックします。

#### やってみましょう

以下の手順では、**【設定】** メニューから **【キーボード割り当て】** コマンドを削除します（このコマンドが削除されても、前項の「やってみましょう」で作成したツールバーボタンからアクセスできます）。

1. **【設定】 - 【メニュー】** コマンドをクリックします。
2. **【設定】** メニューアイコンの横の **+** 記号をクリックし、**【設定】** メニューコマンド一覧を展開します。
3. **【キーボード割り当て】** コマンドを選択し、**【削除】** をクリックします。
4. **【OK】** をクリックして、端末画面に戻ります。**【設定】** メニューをクリックして、**【キーボード割り当て】** コマンドが表示されないことを確認します。

#### カスタム設定の保存

**【ファイル】 - 【保存】** コマンドを使用すると、カスタム設定が現在の端末セッションとともに保存されます。また、他の端末セッションで使用するためにカスタム設定の一部を別ファイルに保存することもできます。例えば、他の端末セッションで使用するために、メニューに対する変更を別のメニューファイルに保存することができます。

#### やってみましょう

以下の手順で、メニューへの変更を別のメニュー設定ファイルに保存します。

1. **【ファイル】 - 【名前を付けて保存】** コマンドをクリックします。
2. **【ファイルの種類】** ドロップダウンリストから **【メニューファイル (\*.rmu)】** を選択します。
3. メニュー設定ファイルに付ける名前を指定します。
4. **【保存】** をクリックします。これで、カスタムメニューがメニュー設定ファイルに保存されました。

**ヒント:** カスタムメニューを新規の端末セッションで使用するには、**【ファイル】 - 【新規セッション】** をクリックして新規セッションを開始し、メニュー設定ファイルを開きます

(**【ファイル】 - 【開く】** コマンドをクリックし、**【ファイルを開く】** ダイアログボックスで **【ファイルの種類】** ドロップダウンリストから **【メニューファイル (\*.rmu)】** を選択した後、メニュー設定ファイルを選択します)。

#### HTML 形式でのカスタム設定の表示

設定ファイルに保存したカスタム設定は、操作が簡単な書式付きの HTML ページに表示できます。この HTML ページは、**【XML のエクスポートおよびトランスフォーム】** 機能を使用すると生成されます。この機能では、Reflection の内部情報（レジストリ設定、割り当て、ディスプレイメモリ、端末画面、および保存された設定と変更された設定など）をテキスト形式、HTML 形式、または Reflection for the Web レポート形式にすることができます。表示される出力は、変換するエクスポートデータに対して指定した XSL トランスフォームファイルに基づきます。まず、このガイドを使用して変更したすべての設定を HTML ページにエクスポートし、ブラウザに表示してみます。

#### やってみましょう

以下の手順では、変更された設定を表示する HTML ページを作成します（何も設定を変更していない場合は、現在の設定を表示できます）。

1. **【ファイル】 - 【インポートとエクスポート】 - 【XML のエクスポートおよびトランスフォーム】** コマンドをクリックします。
2. **【ソース XML】** で **【変更された設定】** オプションを選択します。
3. **【トランスフォーム】** で、**【参照】** をクリックして **【トランスフォームの選択】** ダイアログボックスを開きます。
4. **Transform settings to HTML.xsl** ファイルを選択します。
5. **【結果ファイル】** で、「Settings.htm」と入力し、**【結果ファイルを開く】** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. **【トランスフォーム】** をクリックします。変更された設定がエクスポートおよび変換され、ブラウザに HTML 形式で表示されます。

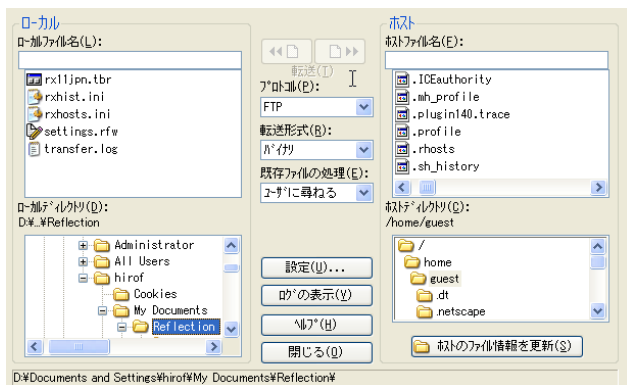
## ファイルとデータの転送

Reflection を使用して、ホストコンピュータとの間でファイルやデータの送受信ができます。Reflection ではファイル転送設定が自動的に選択されるため、ホストへの接続を行うと同時にファイルの転送準備が整います。

### やってみましょう

以下の手順によって、Reflection のデモホストとのファイルの送受信を完了できます。

1. デモホストに接続していることを確認します。すばやく接続するには、【ファイル】 - 【開く】コマンドを使用して、前に作成した設定ファイルを開きます。次に、任意の名前とパスワードを使用してログインします。
2. 【ファイル】 - 【転送】コマンドをクリックします。【ファイルの転送】ダイアログボックスが表示されます。



3. 【ホストファイルを表示】をクリックし、サンプルファイルをデモホストに表示します（これらのファイルは実際には存在しません）。
4. 【既存ファイルの処理】で【改名】を選択します。
5. 転送するファイルを選択し、【転送】ダイアログボックスの該当する転送アイコンをクリックします。Reflection によってファイル転送のデモが行われている間、進行状況インジケータが表示されます（デモホストの使用時には、ファイルが実際に転送されるわけではありません）。

**ヒント:**【転送】ダイアログボックス内のウィンドウの間でドラッグアンドドロップして、ファイルを転送することもできます。

6. 【閉じる】をクリックして、端末画面に戻ります。

## 使用環境でのファイルの転送

ファイル転送がご使用のホストで設定されている場合、前項の手順に従ってファイルを表示したり、ご使用のホストシステムとの間でファイルを送受信することができます。

Reflection の既定値は、WRQ/Reflection 独自のプロトコルになっています。このプロトコルはより高速なファイル転送を提供しますが、ご使用のホストで設定する必要があります。FTP などのパブリックプロトコルを選択するには、【ファイルの転送】ダイアログボックスの【設定】ボタンをクリックします。どのプロトコルを使用すればよいか不明な場合は、ホストシステム管理者にお問い合わせください。

詳細については、Reflection オンラインヘルプで「ファイルの転送」を検索してください。

## タスクの自動化

Reflection はセッションを自動化する非常に効果的なツールを提供します。イベントスケジューラやマクロレコーダなどのツールは、プログラミングの知識を必要としません。これらのツールに加え、Microsoft Visual Basic® for Applications (VBA) が Reflection に付属し、業界標準のスクリプト言語と実際の開発環境を提供します。

## マクロの使用

Reflection には、タスクや PC - ホスト間の対話を自動化するための、完全に統合化された Visual Basic for Applications (VBA) が組み込まれています。VBA は、Microsoft Office 製品を含んだ、多くのデスクトップアプリケーションで使用されています。

VBA のマクロを使用して、生産性を向上させたり、ホストアプリケーションを使いやすくすることができます。例えば、ホストコンピュータにログインしてホストアプリケーションの特定の画面に自動的に移動するためのスクリプトを収録したり、ファイル転送を自動化して、ピーク時を避けた時間に実行することができます。

Reflection で作成するマクロは、メニュー項目、ツールバーボタン、イベント、またはキー操作との関連付けが可能です。それらを Microsoft Visual Basic エディタで編集することにより、VBA マクロをカスタム設定することもできます。

### やってみましょう

以下の手順では、Reflection のデモホストへのファイル転送を収録します。

1. デモホストに接続していることを確認します (すばやく接続するためには、前項の手順で **【ファイル】 - 【開く】** コマンドを使用して作成した設定ファイルを開きます。デモホストには、任意の名前とパスワードを使用してログインすることができます)。
2. **【マクロ】 - 【収録の開始】** コマンドをクリックします。

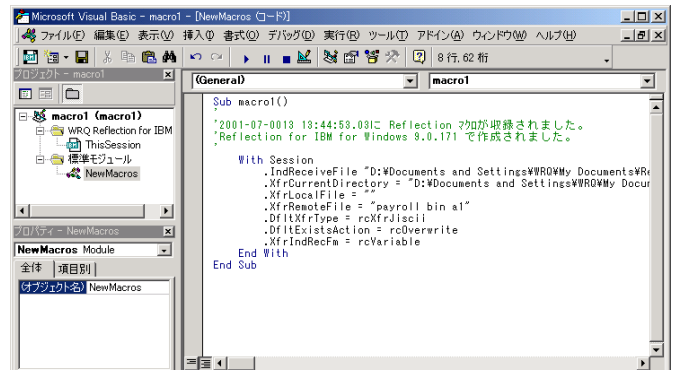
3. 「ファイルとデータの転送」の項で説明した、ファイルを転送するための手順を繰り返します。
4. **【マクロ】 - 【収録の終了】** コマンドをクリックします。  
【収録の終了】ダイアログボックスで、次の設定を行います。

- **【マクロ名】** ボックスにマクロの名前を入力します (マクロの名前には空白を含めずに文字から始めてください)。
- **【ボタンを作成する】** チェックボックスを選択し、**【OK】** をクリックします。マクロの名前のラベルが付いた、新しいツールバーボタンが表示されます。ここでマクロをテストできますが、保存はされていません。

5. マクロを保存するには、**【ファイル】 - 【保存】** コマンドをクリックします。マクロは、現在開いている設定ファイルに保存されます。
6. マクロを実行するには、そのマクロのツールバーボタンをクリックします。ファイル転送の進行状況インジケータが表示されます。このインジケータは、ファイルが現在転送中であることを示します (**【マクロ】 - 【マクロ】** コマンドを使用してマクロを実行することもできます)。

## VBA によるプログラミング

今日では、VB プログラマの数は 300 万人を超えています。Visual Basic for Applications に精通している方は、収録されたマクロを編集したり、Visual Basic エディタを使用して新規のマクロを作成することができます。このツールを表示するには、**【Reflection マクロ】 - 【Visual Basic エディタ】** コマンドをクリックします。また、前に作成したマクロを編集するには、**【マクロ】 - 【マクロ】** コマンドをクリックし、マクロを選択してから **【編集】** をクリックすると、Visual Basic エディタが起動されます。Reflection API は、プログラミングのオンラインヘルプに詳しく説明されています。このヘルプを表示するには、**【ヘルプ】 - 【テクニカルヘルプ】** を選択し、**【プログラミング】** をクリックします。



## イベントのスケジュール

Reflection のイベント機能を使用すると、イベント（「特定の時刻」など）をアクション（膨大な量のデータの転送など）に関連付けることができます。イベントは誘因であり、アクションはイベントに応じた Reflection の行動です。この機能にアクセスするには、[ 設定 ] - [ イベント ] コマンドをクリックします。

### やってみましょう

以下の手順では、前項の手順で作成した VBA マクロを特定の時刻と関連付けて、ピーク時を避けた時間にイベントを実行するように設定します。

1. [ 設定 ] - [ イベント ] コマンドをクリックします。
2. [ 新規 ] をクリックします。
3. [ イベントの種類 ] で、[ 指定時刻に ] を選択します。
4. [ 機能 ] で、[ マクロ ] をクリックします。[ 参照 ] をクリックして、マクロを選択します。
5. 先の手順で収録したファイル転送マクロを選択し、[ OK ] をクリックして、[ 新規イベントのプロパティ ] ダイアログボックスに戻ります。
6. [ 時間 ] を今から 1 分後の値に設定します。[ OK ] をクリックします。
7. [ OK ] をクリックして、端末画面に戻ります。
8. マクロが実行されるのを待ちます。マクロの実行中は、ファイル転送の進行状況インジケータが表示されます。

これで、Reflection 評価ガイドの第 1 部は終わりです。

Reflection の接続、ファイル転送、カスタム設定、自動化機能を十分に評価していただけたでしょうか？ 大企業で使用することを目的に Reflection を評価していただく場合は、Reflection によって大規模な配布構成と管理タスクがいかに容易にできるかを次の項でご覧いただけます。

## 管理ツール :

### Reflection 管理者用ツールキット \*

管理ツールをインストールするには、Reflection インストールプログラムを使用して、インストール可能な Reflection 製品の一覧から「Reflection 管理者用ツールキット」を選択します。

Reflection の管理ツールには、カスタム設定マネージャ、グループポリシー対応機能、および各 Reflection 製品用のプロファイルが含まれています。これらのツールを使用すると、システム管理者は、Reflection 製品をすばやく設定し配布することができます。

これらのツールを使用して、システム管理者は以下のことができます。

- ファイルまたは Web サーバに対して管理者用インストールを実行する
- ユーザ用の設定ファイルを作成する
- Reflection インストールを開き、カスタム設定を含むトランスフォームを作成する
- ユーザがインストールする機能セットを選択する（必要に応じて、機能を非表示にする）
- Reflection インストール、または独自の [ アプリケーションの追加と削除 ] エントリを持つ別の「コンパニオン」データベースにファイルを追加する
- 機能およびコマンドへのユーザアクセスの制限など、Reflection 製品のプロファイルを設定する
- Microsoft グループポリシーエディタを使用して、個人またはユーザグループ別に Reflection の機能を制限する
- 製品ショートカットの場所、パラメータ、および説明を構成したり、カスタム設定された Reflection をインストールする単一のショートカットを作成する

Reflection 管理ツールの包括的な概要については、製品 CD に収録されている「Reflection System Administrator Guide」（英語版）を参照してください。

### ツールキットを使用する前に

Reflection 管理ツールの使用を開始するには、まず各種 Reflection 製品と同様の方法で「Reflection 管理者用ツールキット」をインストールします。ツールキットは、必ず既定のフォルダにインストールするようにします。カスタム設定マネージャまたはプロファイルを起動するには、**[ スタート ]** をクリックして Reflection インストールを含むフォルダ（既定では **Attachmate Reflection**）を選択し、**[ 管理ツール ]**、評価するツールの順にクリックします。

**ヒント :** カスタム設定マネージャを十分に評価するには、Reflection の管理者用インストールを使用可能にする必要があります。管理者用インストールは、カスタム設定マネージャの **[ インストールの準備 ]** ダイアログボックスを使用して実行できます。

### Reflection 製品の配布に関する詳細の参照先

これらのツールの詳細については、製品のオンラインヘルプを参照してください。Reflection の準備と配布についての包括的な概要と手順については、<http://support.wrq.com/tutorials/deploy/> の「Deployment Guide」（英語版）を参照してください。

### 結び

ご使用の環境で Reflection を十分に評価していただけたでしょうか？ Reflection 製品の詳細については、弊社の Web サイト [www.attachmatewrq.jp](http://www.attachmatewrq.jp) をご覧ください。

\* 管理者用ツールキットは、評価版 CD または製品 CD にのみ収録されています。このツールキットは、Reflection からダウンロードした評価版の Reflection には含まれていません。無料の評価版 CD をご希望の方は、弊社までご連絡ください。



本社  
1500 Dexter Avenue North  
Seattle, Washington 98109  
TEL 206 217 7500  
800 872 2829  
FAX 206 217 7515

日本支社  
東京  
TEL 03 5560 8970  
FAX 03 5560 8975  
日本語 Web サイト [attachmatewrq.jp](http://attachmatewrq.jp)  
日本語 E-mail [j-info@attachmatewrq.com](mailto:j-info@attachmatewrq.com)

その他の海外支店については、[www.attachmatewrq.jp](http://www.attachmatewrq.jp) をご覧ください。

【販売代理店】

## CYBERNET

サイバネットシステム株式会社

本社 〒112-0012 東京都文京区大塚2-15-6 ニッセイ音羽ビル  
Tel: (03)-5978-5453 Fax: (03)-5978-2201  
西日本支社 〒540-0028 大阪市中央区常盤町1-3-8 中央大通FNビル  
Te: (06)-6940-3650 Fax: (06)-6940-3601

■ <http://www.cybernet.co.jp/reflection/> ■ [rinfo@cybernet.co.jp](mailto:rinfo@cybernet.co.jp)